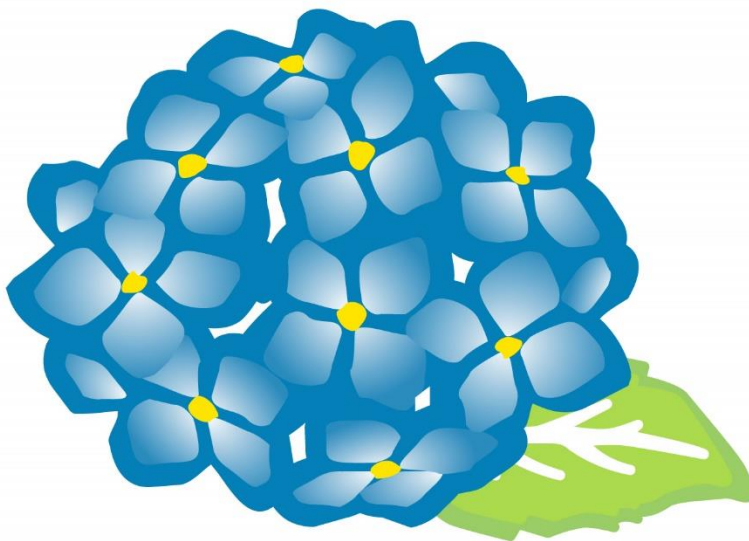


令和元年度 みんなの西区ワークショップ 実施報告



西区の花 アジサイ

令和2年3月 西区コミュニティ課

令和元年度 みんなの西区ワークショップ 実施報告

◎みんなの西区ワークショップを開催しました！

西区では、令和元年度から新たな広聴機能として「みんなの西区ワークショップ」を年4回開催しました。参加者は、市民活動ネットワーク登録団体（23団体）からの選出者を中心に、毎回、生活上の身近な問題や課題、行政課題などを中心にテーマを決め、グループワークで自由に意見やアイデア等の意見交換がなされました。

ワークショップにおいて出された意見交換の内容は、テーマごとに別紙に掲載しています。また、これまでにワークショップで出された意見やアイデア等については、テーマと内容を整理した上で、必要と思われる関係所管課に情報提供するとともに、事業の企画等で今後の参考にさせていただく予定です。



第1回みんなの西区ワークショップ【アジサイ・自治会】

日時：令和元年9月5日（木） 9:30～ 参加者：17名

テーマ①：継続的なPRを重ね認知度を得てきた「区の花アジサイ」を今後どのように活用するとよいか。

テーマ②：自治会の加入率が減少傾向にある中で「自治会の価値や意義は何か。また、その価値や意義をどのように伝えたら加入促進につながるか。」

第2回みんなの西区ワークショップ【アジサイ・西来るフェスタ】

日時：令和元年10月9日（水） 9:30～ 参加者：13名

テーマ①：第1回に各グループから出された「区の花アジサイ」の活用の具体的な内容や方法について。

テーマ②：西区で毎年3月に実施している「西来るフェスタ」の企画や周知方法について。

第3回みんなの西区ワークショップ 中止

第4回みんなの西区ワークショップ【災害・防災】

日時：令和2年1月9日（木） 9:30～ 参加者：15名

テーマ：災害情報に関する情報の周知について。

第5回みんなの西区ワークショップ（まとめ）

日時：令和2年2月27日（木） 9:30～ 参加者：11名

◎これまでのワークショップで出された意見やアイデアを振り返って。

継続的なPRを重ね、認知度を得てきた区の花アジサイを今後どのように活用するとよいか。

▼意見やアイデア

- ・アジサイの多様性（種類、色、季節、植生、植栽場所、活用方法など）をPRし、もっとみんなが気軽に取り組めるようにしたい。
- ・区の花アジサイを区や地域のイベントのタイトルに活用してPRしたい。
- ・民間事業者や商工組合などをはじめ、地域住民、ボランティアの協力を得て、西区産のアマ茶の栽培やアマ茶のスイーツ、パン、アイス等 の新商品を開発できたらいいな。
- ・新商品のターゲットについて、若者にはインスタ映えするアイスやお菓子、中高年には健康に結びつけてアマ茶などをオススメしたい。
- ・アジサイをドライフラワーやハーバリウムなどにしてインテリアとしての活用もできるね。
- ・実は、西区の地形はアジサイの植栽場所に適していることをPRすれば、地域で取り組みやすくなるかな。
- ・西区のアジサイの見どころスポットや身近な花壇などをまとめたものでPRできればいいね。
- ・公民館などを活用し、アジサイを知るための講座もいいね。
- ・市の施設等の協力を得て、花壇やエントランス等にアジサイの苗の植栽や鉢植えを設置したり、「西区の花アジサイ」のプレートも一緒に表示できるとわかりやすいよね。
- ・市の施設や学校、公園など公共の土地から、アジサイの植栽の取り組みが始められるといいな。
- ・街路樹の下に植樹してアジサイストリートをつくりたい。
- ・区のイベントの際に、区内のアジサイマップやアジサイの育て方を1枚のチラシにまとめて配布したらどうかな。
- ・アジサイの里親募集や管理を任せるアジサイロードサポーターのような取り組みはできないかな。
- ・西区内の3つの公園・緑地（大宮アルディージャ、秋葉の森、花の丘）を結ぶトライアングル△ゾーンにアジサイを植栽できたらいいな。
- ・区民やボランティアなど自宅でアジサイを育てている人を募集し協力を得て、アジサイオープンガーデンを開催したい。（期間限定）
- ・区で行っているアジサイ苗講座の継続と苗木の無料配布などがあるといいな。

自治会の加入率が減少傾向にある中で、自治会の価値や意義は何か。また、その価値や意義をどのように伝えたら自治会の加入促進につながるか。

▼意見やアイデア

- 自治会館をコミュニティスクールの実施や趣味の部などの利用施設として活用したいね。
- イベントや祭りなどのふれあい、つながりの場や機会づくりを期待したい。
- 地域にいる様々な知識や経験を持つ人達に、例えば、防災や防犯などの指南役になってもらいたい。
- 自治会に加入せずとも生活できている人が多く、自治会加入の必要性や期待することについて考える機会がない。
- 年代により、自治会に対する認識など加入に対する考え方の相違があるように感じるね。
- 昔は、当たり前のように「子ども会→青年団→婦人会→老人会」と段階を経て自治会が成り立っていたが、現在は、そのような流れが少なくなり、段階別に担当していたものを全て自治会が引き受けるような傾向が見られ負担が大きくなっているよね。
- PTAと自治会（子ども会）との繋がりが弱いように感じるため、機会を設けて子どもたちを含めた自治会との関わりを持たせることができればいいね。
- 年中行事や役員の集まりなどの参加率を高めたい。
- 問題解決に向け、少しずつでもPTAの立場からも自治会に提案をしていきたい。
- 役員を引き受けてくれた人に対して、何らかのかたちで役割等の負担を軽減できるといいね。
- 親子で参加できる子ども会やお祭りを企画して、子育て世帯（世代）に地域の催しに参加してもらいたいね。参加してもらうことで自治会での活動を知って興味を持ってもらえれば自治会への加入を案内しやすいね。
- 日々の当たり前の暮らしがどのように自治会に支えられているのか自治会のあり方や役割について、わかりやすく伝えられたら良い。

西区で毎年3月に実施している「西来るフェスタ」の企画や周知方法について

▼意見やアイデア

- あたたかい春先など開催時期や人が集まるところに開催会場を変えてみる。
- 会場までの臨時バスを運行させれば、もう少し集客が上がると思う。
- 西来るフェスタはマニアックなイメージがあるため、チラシのタイトルを工夫する。たとえば、チラシに「遊べるよ」や「おまつり」などのサブタイトルを大きく記載したり、子どものイラストなどを入れ、マニアックなイベントではないことを周知できるようにするといいいね。
- ターゲットを親子、子ども（赤ちゃん）にした場合などは、トイレやおむつ交換場所・食べ物の充実が重要だね。
- 自転車に関連したファッションショーを開催したり、子どもが楽しめるよう、ゆるキャラを出すのも面白いね。
- 会場全体にまとまり感を持たせ、キッチンカー等の出店数を増やして、にぎやかな雰囲気づくりができるといい。
- おもしろ自転車コーナーは、運営団体や親が後ろから押さないと進まないことがあるため、子ども自身が自力で前に進めるような自転車や配置場所にするなどの工夫も必要だと思う。
- 就学時前の小さな子どもたちには、キッズバイクのように自分で乗れることが楽しめる自転車を用意してあげたい。
- 自転車安全走行ゲームでは、交通安全協会から出してもらえる免許証を活用し、上手く乗れた子どもたちに対し免許証を渡してあげたい。

災害情報に関する情報の周知について

▼意見やアイデア

- 防災行政無線の問題対策
 - ①放送回数を増やす ②半鐘の復活 ③対象地区別の放送
- サイレンを応用した警報（サイレンの回数により警報段階を周知する）
レベル3⇒サイレン3回 レベル2⇒サイレン2回など
- 災害の最新情報をきめ細かく情報発信する
第1号情報発信⇒第2号情報発信⇒第3号情報発信など
- 防災行政無線の内容が聞き取れなくても、消防車の「カン、カン、カン」という警報は 聞き取りやすいため、この音が鳴ったらどの段階の状況を指すのかを認識させておく。また、利用できる人は「さいたま市防災行政無線メール」に登録してもらい、放送内容が確認できる状態にしておく。
- 行政からの情報入手には限界があるため、隣り近所の見守り活動や共助を中心に、情報を知った人が知らない人へ声掛けしつつ伝える。
- 自治会や地域の集まり（まつり・防災訓練等）などの際に「さいたま市防災行政無線メール」のメリットとともに登録を呼びかけたい。
- さいたま市で行っている「災害時の情報伝達」の方法（種類）については、市のHPに掲載されているが、紙ベースで高齢者等もわかりやすいようにしたい。例えば、A4サイズ1枚ぐらいに一覧表にしてまとめたものを作成し、配布してみてもどうか。または、市報（区報）やハザードマップ、西区ガイドマップなどにも掲載することで、区民の目に触れる機会を増やすことも視野に入れて周知するのはどうか。

災害情報に関する情報の周知について ～台風19号の体験から学んだこと～

▼意見・アイデア・感想

- 災害の種類によって避難場所や避難方法が変わるため、自分から情報を得て判断して行動することが必要になってくる。
- メールや無線などの情報は、確認した時点での最新情報が発信されるが、情報の内容を的確に把握し自分の状況に置き換えて活用したい。
- 役所の避難情報もリアルタイムで常に情報発信されるわけではないため、その時に行動する見極めが難しいと感じた。
- 今回の台風で、避難指示が出された時には、道が浸水していて通れず、車も使えない状態であったため、災害情報を基に早めの判断が大事だと感じた。
- 状況により、防災無線が聞こえない場合もあり、正確な情報入手が困難になるため、その他の情報入手方法を考えておくべきだと思う。
- 緊急の一時避難場所を増やしたい。（スーパーなどの大型店舗の駐車場や公園など）
- 身体の不自由な方を車ごと避難できるような受け入れ体制も必要だと思う。
- 避難場所として、市で指定された場所だけでなく、ハザードマップ上の白い部分（高台）を利用して避難する。
（例えば、高台にある公園の駐車場など、車で移動して、そのまま車内で待機する）
- 区は各避難所と連携を取り、各避難所の受け入れ体制や、受け入れ状況（人数）について把握するとともに、最新の情報で避難する人の問い合わせに対応できるように準備しておいてもらいたい。
- 自治会（地域）や個人単位で防災行動の「マイ・タイムライン」を作成し、シミュレーションしておくことが大事。
- マイ・タイムラインを作成して満足せず、あくまでも参考として認識し、実際に行動する際は、こまめに気象情報や避難情報等を収集し、臨機応変に行動できるようにしたい。

みんなの西区ワークショップ （まとめ） ～ ワークショップを振り返って ～

▼意見・感想など

- ・タイムリーなテーマで話し合うことができて良かった。
- ・ワークショップに参加して、まだまだ西区の知らなかったことや、改めてわかったこと、気づいたことなどが多々あり、とても参考になった。
- ・ワークショップで知り得た情報を自分の地域にも伝えたい。
- ・1つの課題をとっても、地域性や見方により、考え方も対策も様々であるため、その時の状況に合った対応が必要であると思った。
- ・ワークショップのように、皆で集まって1つのテーマで情報交換しながら話し合うことが大事だと思った。
- ・すぐに変わらなくても、まずは地域や個人でできることから、始めてみたらいいと思う。
- ・「水と緑と花のまち」のキャッチコピーは何であったか？西区をもう1度振り返ってみてもいいのではないかなと思う。

